



南海地震は必ず起こる

南海地震は、これまでおおよそ100年から150年周期で発生し、東南海地震、東海地震と同時または連動して発生しています。

政府の地震調査委員会の発表では、今後30年以内の発生確率を50%程度、その規模はマグニチュード8.4前後と推定されています。

西条市でも地域によっては震度6弱の強い揺れが予想され、直下型の阪神・淡路大震災と異なり、海溝型地震のため、ゆっくりとした揺れが1～2分も続くといわれています。

うみまるの海知識 Q&A

Q：津波は、どんなときに発生するのですか？

A：主に海底で起こった断層のずれが、海底を上昇させたり沈下させたりするために発生します。



海上保安庁
マスコットキャラクター
うーみん、うみまる

一般的な感覚の「波」より異常な潮の満ち引きで、海面の上昇・下降が

数回から10回程度起こり、津波が引くときはあらゆるものを根こそぎにするほどで、家屋の倒壊などの被害は、引き潮のときが多いといわれています。

過去には遠いチリやアメリカ西岸の巨大地震で発生した津波が太平洋を越えて伝わり、日本でも被害が出ました。

今世紀中に起きると予想されている、東南海・南海地震が発生した場合、西条市付近には地震発生後約180分～250分を経て、津波の第1波が到達し、その高さは2～3メートルと予想されています。

資料：東南海・南海地震の想定津波の高さ
中央防災会議（平成15年9月）

海の「もしも」は118番

今治海上保安部 TEL0898-32-2882
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/06kanku/imabari/>

自主防災組織を結成しよう！

地域の安全はみんなで守る

地震などの自然災害には、市や関係機関が全力を挙げて防災活動に取り組みます。しかし、大規模な災害が発生した場合、①電話の不通、②交通の阻害、③同時多発する火災などで、その活動能力が著しく低下します。

このようなとき、隣近所の人と協力し合い、組織的に行動する「自主防災組織」による活動が、被害を最小限に食い止める大きな力となります。



自主防災組織の主な活動内容

日常の防災活動

- 防災知識の普及・啓発
防災講演会などの開催、防災パンフレットなどの作成。
- 防災巡視・点検
避難用具の整備・点検、危険個所などの巡視活動。
- 防災訓練
初期消火や避難誘導など、災害時に対応できる態勢づくり。
- 防災資機材の整備
資機材の点検・更新・追加購入。

災害発生時の防災活動

- 情報の収集・伝達
行政機関等からの情報収集・伝達、被害状況・避難状況の報告。
- 初期消火活動
一致協力しての火災拡大防止。
- 避難誘導活動
災害時要支援者を優先に、避難場所への誘導。
- 救出・救護活動
資機材を用いての救出作業、負傷者の応急手当・搬送。

市では自主防災組織の結成と育成を支援しています
詳しくは、市庁舎本館危機管理課 防災事業係
TEL0897-56-5151 内線3123

災害時の通報は 防災専用電話 0897-52-1400

市では、地震や台風など自然災害時の通報を受ける「防災専用電話」の運用を開始しています。

危険個所の発見や被災状況・避難状況などを、市の災害対策本部や水防本部へ通報する際は、防災専用電話をご利用ください。なお、火災・救急の通報は、災害時においても従来どおり「119番通報」をご利用ください。

家族の安否確認は 災害用伝言ダイヤル「171」

大きな災害が発生した場合、家族や友人などの安否確認・連絡に活用できる「災害用伝言ダイヤルサービス」があります。

サービス利用開始はテレビやラジオで通知され、利用方法は局番なしの「171」に電話し、音声ガイダンスに従って伝言の録音や再生を行います。（通話料が必要です）

※携帯電話などで文字による伝言を確認できる「災害用伝言板」もあります。